

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300641
法人名	有限会社 広優
事業所名	グループホーム 織月の郷
所在地	鹿児島県鹿屋市川西町2483番地 (電話) 0994-42-6667
自己評価作成日	令和3年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一日一笑」を心がけ、入居者様お一人おひとりのペースに合わせて笑顔でのんびりと楽しい雰囲気の中で一日一日を大切に生活できるように努めています。入居者様の体調やコロナウイルス感染予防に努めながら、ドライブや散歩、園庭での活動、食事など気分転換を図り、また職員が働きやすい職場を提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は静かな集落にあり、畑も続く広い敷地に建てられている。広いリビングからはグランドゴルフのできる庭が眺められ、各居室が見渡せて目配りの届く造りとなっている。
- ・例年、地域との交流が活発に行われてきたが、今年度はコロナ禍の為、地域行事への参加や外部との交流は自粛している。その中で、近隣からの野菜や梅・柿の差し入れを受けたり、梅干しを作ってお返しにする等の近所付き合いを大切にしている。
- ・代表者・管理者は、過度な見守りや支援を避け、職員の見配りの中で利用者がのんびりと一人ひとりのペースで生活できるように取り組んでいる。車窓からの花見やドライブに出かけたり、近隣や庭の散歩、様々な取り組みの楽しい食事など、コロナ禍の中でも閉じこもらず楽しく過ごせるよう工夫している。
- ・代表者・管理者は、職員が個々の状況に合わせて働きやすく、休暇の取得等にも配慮した職場環境作りに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年11月27日

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識できるよう玄関及びトイレに掲示し、いつでも話し合える環境を作っている。また、パンフレット等にも掲載している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を毎日唱和し、パンフレットや「ひまわり新聞」に掲載し、玄関やトイレにも掲示し、常に振り返りを行い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為書面にて地域の民生委員の方や町内会長と意見交換をしている。	町内会に加入しているが、コロナ禍の為、地域行事への参加は自粛している。近隣住民と散歩や掃除の時に挨拶を交わしたり、野菜・梅・柿の差し入れが有り、梅干し漬けを作りお返しする等、近所付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入所希望の相談に応じた際に認知症の人の理解と協力を求めている。また、認知症相談窓口「オレンジの窓」の看板を掲げ地域の方が安心して相談できる環境を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面にて事業所の活動内容や計画を報告し、意見や情報をもらい、運営サービスの向上に活かしている。	コロナ禍の為に書面開催となっており、事業所の状況報告と委員の意見を合わせた書類を送付し、委員からコロナの感染防止対策の徹底についての意見があり、一層留意して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>日頃から電話やメールにて相談や意見をもらい、協力関係を築くよう努めている。</p>	<p>担当者とは、主にメールやファックス・電話で報告や相談を行って連携を図っている。介護保険の認定申請時には出向している。生活保護担当者とも電話で報告等を行っている。市の研修には参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の無いケアに取り組んでおり、自由な生活が送れるよう支援している。また、申し送り時や資料にて身体拘束についての意識付けを行っている。</p>	<p>指針があり、委員会を3ヶ月に1回、研修会を年2回実施し、職員の理解を深めている。スピーチロックは気付いた時に職員間で注意している。玄関の施錠はせず、外出希望時は見守りや同行で対応し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について申し送り時や資料にて学ぶ機会を持ち、常に入居者本人の意向を第一に考えることができるようにしている。また、職員がストレスを抱えないように心のケアにも配慮しながら虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について資料や申し送り時等、学ぶ機会を持ち、職員間で共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書などは、入所事前に十分説明を行い、理解・納得された後に署名捺印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部に第三者委員会を定めており、玄関に掲示しているが、意見や要望は聞かれない。家族は直接管理者や職員に話されており、出された意見、要望は代表者と話し合い運営に反映している。	利用者には、日常の会話を通して要望等を聞き対応している。家族には、面会や電話・受診同行時に要望等を聞き、その都度代表者と話し合っ対応している。家族会も自粛しているので、電話やメールで意見や要望を聞き対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、いつでも職員が意見や提案を話せる環境づくりに努めており、意見等反映させている。	日常的に設備や備品の更新、ケアに関しての提案等が職員から出され、代表者・管理者は反映できるよう努めている。ミーティングの開催を参加しやすいよう、日曜から平日に変更している。個別相談は専務・管理者が受け代表に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人員基準を満たしたうえで、職員の状況に合わせて臨機応変に勤務交代や希望休に対応し働きやすい職場になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業に支障のない範囲で、研修などに参加し、意識改革や質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>困難事例やわからないこと等、他の事業所に連絡を取り合い、情報交換しながらケアの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活に不安を感じている入居者様に対して、積極的に話しかけ思いを受け止め楽しい話題を提供していく事で少しでも不安が軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に聞き取りを行い、じっくりと話を傾聴する事で安心感を持ってもらえるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、可能な限り、様々な選択肢を提供し、その時々に応じた必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等、本人が出来ることをお願いし一緒に行う事で共に生活し支え合う関係作りができるよう心掛けている。また、いかなる場合にも感謝の気持ちを持たないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡を取り、本人の状況を報告し、家族・職員とで生活支援する事の大切さを伝え、なんでも相談し合える関係を築き、家族への感謝も忘れずに支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの要望や意見を確認し可能な限り、叶えられるようにしている。関係が途切れないよう家族とも協力し支援している。	家族との面会や電話での交流を支援し、事業所から2ヶ月毎に「新聞」と写真を添えた便りを送付して近況報告を行っている。訪問美容師や往診でのふれあいを大切に馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者様が日中は居間にて過ごされている。時々トラブルもあるが直ぐに職員が間に立ち仲介や声掛けに努め良好な関係作りができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設へ移られた方には家族に状況確認をしたりと関係が断ち切らないよう努めているが、時間が経つにつれ連絡を取る回数が少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での様子観察によりその方の思い等をくみ取る事ができるよう心掛けている。意思疎通が困難な方もできるだけその方の立場に寄り添う事で把握できるよう努めている。	日常生活の中で会話を通して、本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、家族や入居前のサービス事業者・入居後の関わりの中からの情報を参考に、寄り添って思いを推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時の情報提供書やこれまでの生活歴等を家族との面談時に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録により一人ひとりの状態や一日の過ごし方等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り時に意見やアイデアを出し合い、本人の変化や思いを、介護計画に反映している。また、家族には必要時電話等で意見を伺い介護計画の作成に活かせるよう心掛けている。	家族の要望は電話や面会時に把握し、担当者会議で本人や家族の要望を基に職員の意見も入れて検討し、介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、6ヶ月毎及び必要時に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、特別な事がある場合には、細かく記録している。連絡帳や申し送りを活用し、情報を共有し実践に活かしている。またiPadを導入し介護計画の見直しにも活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じて受診の対応や入退院の送迎等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の様々な行事には参加することがコロナ禍で、できない状況ではあったが、散歩やドライブ等を実施し気分転換に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者が往診を希望されている。往診時に本人の状態を的確に伝える事ができ、医師との連携も的確な助言をもらえる事で本人や家族の安心感が得られている。また、受診を希望される入居者の家族に生活状態を報告し、時には職員も同行する事で病状の把握に努めている。また、急変時も素早い対応で適切な治療が受けられている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、かかりつけ医受診は家族対応を基本とし、必要時は職員が同行している。適切な医療が受けられるように支援している。緊急時はかかりつけ医の指示や救急搬送で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>全職員で体調の変化を常に把握し異変時には早期に適切な治療や看護が受けられるようかかりつけ医と連携し体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は早期に情報提供を行い、入院中は相談員と密に情報交換を行っている。現状や回復状態を詳しく尋ね、退院時には指導を受けることで本人が安心して退院できる関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化ケアや看取りに関する指針を説明し同意書を頂いており、本人の状況変化に伴い、家族の意向を確認し主治医と連携、共有し常に最良の支援ができるよう心がけている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について、選択肢も含めて指針で説明し、同意書をもらっている。段階に応じて家族の意向確認を行っており、状況変化時にも主治医説明に家族と職員が同席し、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急の講習会に参加し応急手当や緊急時に対応ができるように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難方法を全職員が身につけることができるよう年2回、訓練している。非常食は常に常備し、災害に備えたライフラインの燃料備蓄及び飲料水を確保できている。</p>	<p>防災および非常災害時対応マニュアルがあり、年2回避難訓練を昼夜想定で実施している。コロナ禍の為、消防署の立ち会いは無く、地域住民への参加依頼もしていない。緊急通報装置への隣人の登録等、地域との協力体制は築いている。災害時の水やガスの供給も業者と協定書を結んでいる。災害用の備蓄は水や米・缶詰・レトルト食品等の食料を確保している。カセットコンロや発電機も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を常に持ち、本人の誇りやプライドを傷つけないような声かけや対応、行動ができるよう心掛けている。	研修を実施し、入室時やケア開始時の声掛け、失禁時の処理等で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。ホールでの申し送りの場合は、部屋番号を使用してプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言動で本人の思いや希望をくみ取れるよう心がけ、また自由に決定できるような場を提供しながら、本人の思いに沿った支援が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味等把握し、本人のペースや体調に合わせて、一日を過ごすことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣は、本人に任せ見守りを行い出来ないことのみ職員が手伝うようにしている。自分の意思が言えない入居者様には、毎日同じような服装にならないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を一緒に収穫したり、季節を感じられるような食材を取り入れている。梅干し作りや干し大根作りにも積極的に参加できるよう支援している。	嗜好調査を入所時に行い、献立や調理は、職員が交代で作成している。旬の食材を使い、下ごしらえや盛りつけ・保存食作りを利用者と一緒に行い、代替食も準備している。誕生日の特別メニューやケーキ・季節の行事食・出前の寿司・餅つき等、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの、食事量・水分量を把握し必要に応じて、必要な食事や水分が提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、口腔状態を把握し、義歯の方には入睡前、義歯洗浄剤の使用をすすめ清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、声掛けや介助を行っている。排泄の失敗があっても自尊心を傷つけないように声かけを行い清潔保持に努めている。	日中は全員トイレで排泄している。排泄パターンを把握し、時間で声掛け誘導をしている。排泄用品は個々に応じた物を使用している。リハビリパンツから布パンツに改善した例もある。夜間は必要に応じて、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは毎日提供している。毎日排便チェックし、水分摂取の増量、病院から処方された下剤については、排便の様子をみながら加減等個々に応じて支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴可能なので、本人の都合でいつでも入浴できる。1対1で話せる貴重な時間なので、本人のペースで入浴できるよう支援している。	毎日入浴が可能である。本人の希望で入浴している。入浴剤の使用やゆず湯等を楽しんでいる。浴槽に入れない場合はシャワーと足湯をしている。職員数が多いので入浴中にゆっくり話を聞いている。拒否の場合はタイミングを見て誘い、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて本人が安心して休息できる環境作りに努めている。また、入床や起床は無理強いする事なく、本人の意思に沿ったケアを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるように、薬の説明書は個人の記録簿に添付してある。薬の変更は連絡帳や申し送り情報共有し、症状の変化に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	洗濯物たたみやテーブル拭き等率先して手伝って下さる方も多く、役割意識が出来ているように思える。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	コロナ感染対策し、車からは下りずに紫陽花など季節を感じられるよう外出支援している。普段とは違う表情や笑顔がみられ入居者様同士や職員とのコミュニケーションもとれるよう心がけている。	敷地が広いので、散歩やグランドゴルフ・菜園を楽しんでいる。コロナ禍で外出が制限されているが、天気の良い日は周辺や公園に出かけている。車窓からのアジサイやコスモスの花見のドライブにも出かけている。コロナが終息すれば年間外出計画も実行できる体制である。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	買い物ができるように所持金を預かっているが、一人ではお金を使われることはない。買い物を頼む方はおられる。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	手紙のやり取りをされる入居者様はいらっしゃらないが家族から手紙や写真が届き電話にて話をされることがあり、取次ぎや仲介の支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、テレビ、ソファが備えてあり、加湿器や空気清浄機や空調等で快適に過ごせるようにしている。いつでも居心地良くくつろげるよう配慮している。	リビングは天井が高くゆったりとした広さがあり、日当たりも良く、ウッドデッキがある。季節の飾り付けがされた室内は、窓を開けて換気を行い、空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な環境に調節されている。利用者は畳スペースや椅子・ソファの好みの場所でくつろげるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所でくつろいでおられる。気の合った方々が楽しく過ごせる場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家族が作った色紙・飾り物を置いたり、使い慣れた家具等で、自分らしい居室作りをしてもらい居心地よく過ごせている。	居室にはベッド・押し入れ・洗面台・エアコンが備えてあり、本人は使い慣れた寝具やタンスを持ち込んだり、位牌や時計・写真・ぬいぐるみを身近に置いて安心して過ごせる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は整理整頓に努め、安全かつ自由に行動できるように気配りしている。ホールが広い分歩いて運動される方もおられる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない